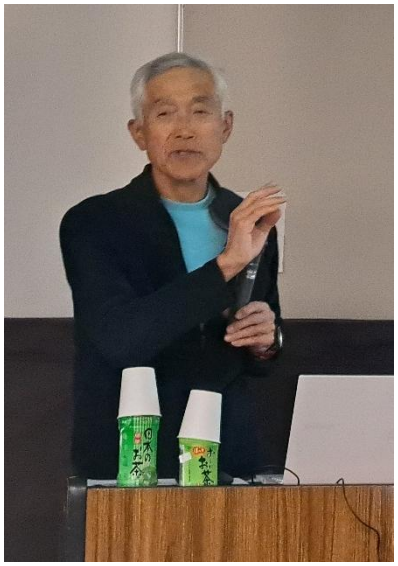
市民学コース　富士見の歴史講座

第2回

新河岸川舟運が結ぶ福岡河岸と消費地の関係について



講師　坪田　幹男氏

日時　　１１月８日（土）１０：００～１１：４５
会場　　鶴瀬公民館第３集会室
講師　　坪田　幹男氏　元上福岡歴史民俗資料館館長
　　ふじみ野文化財審議会委員
受講生　１９名

はじめに

講師より自己紹介

１９７２年　合宿地の一乗谷朝倉氏遺跡に遭遇し大きな関心を持つ
１９７５年　大井町にある大井戸の発掘調査
１９７７年　大井町教育委員会３８年間勤務
２０１５年～２０１８年　水子貝塚資料館勤務
ふじみ野市民大学と関わる

本日の目次

１．　新河岸川について
２．　舟運について
３．　積荷と後背地
４．　福岡河岸について
５．　福岡河岸を残す

１．　新河岸川について

・荒川を外川、新河岸川は内川と呼ばれたが明和期（１８世紀後半）に新河岸と改称。
・明治１８年（１８８１年）古市場村迅速測図によると九十九曲りが見て取れる
昭和 22 年（1947 年）旧新河岸川、びん沼、福岡河岸
・武蔵野台地のへりを流れる新河岸川、河川の特徴、主な縄文遺跡を図表
・江川とは大川に対する言葉で「枝川」から転訛した普通名詞。

・新河岸川江川　三兄弟　＝川越江川・福岡江川・富士見江川を指す。
　福岡江川：　全長 4．３ｍ　流路面積 4.65m
　富士見江川：全長 2.7m　　流路面積 14.79m
　川越江川：　全長 4.3m　　流路面積 9.02m
江川はすべて新河岸川にそそぐ

・砂川堀も「江川」砂川という名前は武蔵野台地に残された地名

２．　舟運について（河岸は港）

・舟運は古代から重要な交通手段として利用されてきた。奈良・平安時代の記録や源氏物語にも登場。
・江戸時代になると米作中心経済が発展し、関東一帯に河川舟運が整備され、江戸は世界最大の都市として発展。
・河岸場は、各村の港としての役割を形成し、江戸を結ぶ商品輸送の大動脈となった。盛大な時期の商業圏は、所沢・入間・狭山・飯能にまで及んだ。
・新河岸川の舟運につて
1638（寛永 15）年、川越大火で焼失した川越・仙波東照社を再建するために建築資材を江戸から当時内川と呼ばれた新河岸川沿いの寺尾村五反田が選ばれて運んだのが始まり。
　1945（正和 4）年、川越藩主松平信綱が「九十九曲り」と言われる多数の屈折を持たせ水量を安定させる改修工事を実施、江戸と川越を結ぶ舟運ルートとした。
・河岸場　ふじみ野　　2 か所
　　富士見市　　6 か所

・福岡河岸は川越の開始から 86 年後 1733（享保 18）3 軒の問屋が農業の傍ら回漕業を営み始めた。水路図、鉄道網参照
　3 軒の問屋…福田屋、江戸屋、吉野屋
・「九十九曲り」流路や川幅は一様でなく、川に船を通すには少ない水量で川道を左右に蛇行させて水持ちがよいように整備をしていた。

内川では棹と櫓でこぐのが普通で小さな帆も少しは使うが、しょっちゅう帆の向きを変えねばならないので厄介であった。本格的な河川改修は大正 9 年水量が減少。大正 3 年東上鉄道が開通、輸送手段は船から鉄路に変わった。

・11 年後昭和 6 年には通船停止の県令が出され 280 年余りの新河岸川舟運は終焉した。1918（大正７）年の東上鉄道時刻表・池袋～坂戸駅まで

舟運ルート全盛期の持場絵図、新河岸川の河岸場・ふじみ野市内の河岸（百名木（ドウメキ）水が堂々と流れる様子をドウメキ・百目木・百目鬼・
道免きなどと表現した。小字で残る。柳田国夫は川瀬の水がどよめくことによるという。

・元禄期（1688～1704）の三富新田開発、武蔵野開発地域の進展に伴いこれらの後背地として、川越に対し、古市場・福岡河岸より新倉河岸を「中河岸」と総称し領主の年貢米・御用荷物の輸送など領主的ルートの河岸場として成立。船問屋は農産物、肥料などの仲買商も兼ねた。

・新河岸川河岸場の成立時期、新河岸川の船の特徴、1702（元禄 15）年、船数の一覧表、推移、舟運の種類（並船、早船、急船．飛切船、雁舟）

・「川越夜船」夜行寝台に対し早船争論、早船争論 2（宿場からの苦情）

３．積荷と後背地

・享保期ごろ、江戸向けの下り荷物は主として農産物、木材など
化政期から甘藷が目立ち、川越芋として有名。

・登り荷物は、食料、衣類、雑貨など日用品や肥料
その他、葛西舟と称する糞尿も大切な肥料として盛んに利用された。
・舟運は天保期より乗客も扱うようになった。
新河岸川を利用したのは沿岸のものばかりではなく、東松山・小川・
秩父・飯能遠くは青梅・信州あたりからも江戸宛の荷物が運送された。
・新河岸川舟運の主な積荷の変化を図表参照
・干鰯（ほしか）鰯を加工して作った肥料、〆粕、糠、灰も肥料
・取引先を示す資料（80 カ村）
・江戸の糞尿の行方　　葛西船と同様に、荒川から新河岸川の間は川越舟と呼ばれ、樽で回収した下肥を船の積み替え、の農業生産地で資源として販売するシテムが確立。

４．福岡河岸について

多くの写真により江戸期、明治・大正・昭和期の河岸景観、河岸道、道しるべ、福岡河岸の対岸の古市場周辺の写真もあり、参照してほしい。

５．　福岡河岸を残す！

① 市報に福田屋を河岸記念館として公開している記事
② 江戸屋を保存整備　明治 26 年江戸屋家相図、江戸や庭園の発掘調査状況
③ 吉野屋に残る唯一の遺構である国登録有形文化財の土蔵
④ 河岸場の景観を保存する　武蔵野台地のへりに立つ福田屋
川の景観と相まって風情がある

質問

関心がある船頭の生活ぶり、身分について
船頭として一人前になる修行は

報告　加藤久美子理事